

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|--|-----------------------------------|---|------------------|---|-----|--------|---------|
| 330743148A | 卒業研究(加藤彰浩) Graduation Research | 加藤彰浩 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| <p>本授業では、自ら考え、主体的に活動し、調査・研究を行い、各自の興味・関心により設定したテーマについて、論理的思考に基づき、各自の主張を文章にまとめる方法と技術およびそれらを発表するプレゼンテーションに関する知識および技術について学ぶ（DP1・3）。各自が設定するテーマは、「体育・スポーツ」および「発育発達」を中心とし、家政学および教育学的思考に基づいた知識を駆使し、設定することが望ましい（DP2）。</p> | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 資料や文献の検索方法を学び、内容を整理し、まとめる。 ② 各自の興味・関心をもとに、実現可能なテーマを設定する。 ③ 各自に必要な調査・研究方法を調べ、設定する。 ④ 調査した結果をもとに、考察を検討し、文章にまとめる。 ⑤ 研究内容をもとにプレゼンテーション資料を作成し、発表する。 | | | | ① 資料や文献の検索方法を学び、内容を整理し、人に伝えることができる。 ② 各自の興味・関心をもとに、実現可能なテーマを設定できる。 ③ 各自に必要な調査・研究方法を設定することができる。 ④ 調査した結果をもとに、考察を検討し、文章にまとめることができる。 ⑤ 研究内容をもとにプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 各授業テーマに合わせ、自分のテーマについて指示された内容についてまとめ、資料を作成することができる。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 指示された内容以外に自分で考え、必要な資料を探し、まとめ、資料を作成することができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 各授業テーマにおいて、自分の資料や発表に不足している知識および内容を発見し、それを解決するために行動することができる。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 各授業において得た知識および明確化した課題を解決しようと各自で資料を検索し、資料作成に生かすことができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 資料をもとに自分の考えや意見を相手に伝えるように話し、議論することができる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | 他者の考えや意見を聞き、様々な考えや意見があることを理解し、自分の研究に生かすことができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 授業を休まず、決められた期日までに決められた資料を作成し、発表および提出することができる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 適時授業中に資料を配布する。 | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 本科目は、卒業必修科目であり、それまでに学んだ全ての科目をもとに大学での学びの集大成となる科目です。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| ○授業に出席するだけでなく、積極的に参加することにより、社会人として必要なスキルを得ることができる。 ○各自、興味のある内容について関心を持つこと。 | | | | ○無断欠席は不可である。 ○毎回各自発表をしてもらうため、資料を作成してくること。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | | |
|-----------------------|--------------|-------|------|---|---|---|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | | | |
| | | | ② | | | | |
| | | | ③ | | | | |
| | | | ④ | | | | |
| | | | ⑤ | | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | 0 | ① | | | |
| | | | | ② | | | |
| | | | | ③ | | | |
| | | | | ④ | | | |
| | | | | ⑤ | | | |
| | | レポート | 70 | ① | | ✓ | 卒業論文について、以下の点を評価する。 ・テーマは斬新かつ有益な知見をもたらす内容あるか。 ・研究方法は適切であり、明快な記述がされているかどうか。 ・結果は明快に示されており、またそれらをもとに考察が根拠をもって行われているか。 ・論文の体裁が整っており、まとまっているか。 【知識の獲得】 各自のテーマ・領域における知見や考えの整理：30% 【知識の活用】 各自のテーマ・領域における知見を踏まえた自分の考えをまとめる：60% 【知識の解決】 各自のテーマ・領域において導き出せる考えの検討：10% |
| | | | | ② | | ✓ | |
| | | | | ③ | | ✓ | |
| | | | | ④ | | ✓ | |
| | | | | ⑤ | | | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 20 | ① | | 卒業論文発表について、以下の点を評価する。 ・スライドはシンプルであり、相手に伝わるような内容で構成されているか。 ・相手に伝わるように配慮して発表しているか。 ・質疑応答に対し、適切に応えられているか。 | | | |
| | | ② | | | | | |
| | | ③ | | | | | |
| | | ④ | | | | | |
| | | ⑤ | ✓ | | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | （主体性） ・指示に沿った内容で適切な資料が準備できるか。 （実行力） ・自分で考え、助言以外の内容を調べ、それらをもとに資料を作成できるか。 （発信力） ・自分の考えを相手に伝えるように議論できるか。 （傾聴力） ・他者の意見に耳を傾け、自分の考えていることと比較、検討することができるか。 （課題発見力） ・自分の知識および理解が足りないところを把握し、それらを解決するように行動し、資料に反映できるか。 （創造力） ・助言内容をもとに、次回の授業に向けて資料を作成できるか。 （規律性） ・毎回、きちんと授業に資料を作成できるか。 | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・斬新かつ有益な知見をもたらすテーマを設定できる。 ・研究方法は適切であり、明快な記述ができる。 ・結果は明快に示し、かつ考察が根拠をもってできる。 ・論文の体裁が整っており、まとめることができる。 上記4点ができた場合をAとし、さらに下記1点が出来た場合をSとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・斬新かつ有益な知見をもたらすテーマを設定できる。 ・研究方法は適切であり、明快な記述ができる。 ・結果は明快に示し、かつ考察が根拠をもってできる。 ・論文の体裁が整っており、まとめることができる。 上記のうち、3点ができていた場合をBとする。 上記のうち、2点ができていた場合をCとする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・スライドはシンプルであり、相手に伝わるような内容で構成されており、相手に伝わるように配慮して発表し、質疑応答に対し、適切に応えることができる。 | |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|---------|--|--|-------|---|
| 1-5 | ○オリエンテーション ○文献検索方法について学ぶ ○各自の興味・関心のある事象に関する文献を検索し、レビューする | 演習 | 文献を調べ、資料を作成し、議論することができる。 | (予習) 各自の興味・関心のある事象に関する文献を読み、資料を作成する。 (復習) 他者からもらったアドバイスを整理し、次回の資料作りの構想を考える。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | ○研究テーマの決定 ○研究計画書の作成 ○研究目的および研究方法について検討する | 演習 | 文献を検索し、各自の研究テーマを設定することができる。さらに、研究計画書を作成し、議論することができる。 | (予習) 研究テーマに関する文献を読み、研究計画書を作成する。 (復習) 他者からもらったアドバイスを整理し、次回の資料作りの構想を考える。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-15 | ○予備調査 ○研究目的および研究方法の再検討 | 演習 | 予備調査を実施し、調査結果をもとに資料を作成し、議論することができる。 | (予習) 予備調査の段取りを検討し、調査計画書を作成する。 (復習) 他者からもらったアドバイスを整理し、次回の資料作りの構想を考える。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | ○調査実施 ○データ入力 ○データ分析 ○調査結果の検討 | 演習 | 調査結果を分析し、結果に対する考察を考え、議論することができる。 | (予習) 調査した内容を入力し、結果をまとめ、資料を作成する。 (復習) 他者からもらったアドバイスを整理し、分析内容を再検討する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 21-25 | ○論文デザイン ○論文の作成 | 演習 | 結果および考察をもとに論文デザインを行い、議論することができる。 | (予習) 分析したデータをもとに考察を検討し、論文デザインを作成する。 (復習) 他者からもらったアドバイスを整理し、論文デザインを再検討する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 26-30 | ○論文の作成 ○論文概要の作成 ○発表スライドの作成 および発表練習 | 演習 | 論文デザインを決定し、論理の通った文章および図表を作成、論文を執筆することができる。 | (予習) 論文デザインをもとに執筆する。発表スライドを作成し、発表練習を行う。 (復習) 他者からもらったアドバイスを整理し、論文およびスライドを再検討する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-------------|------------------------------------|------------------|--|-----|--------|---------|
| 330743148B | 卒業研究(松井素子) | 松井素子 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| 4年間での学びの集大成として、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成するために(DP②)、衣食住、子育てなどに関する実践的・体験的な研究活動を通して、研究結果をわかりやすく発表する知識と技能を身に付ける(DP③)。テーマとして、主に「美術・芸術・美術教育」および「文化全般」について、世界を俯瞰的に眺める能力を発揮して、自身の主題に沿った研究を遂行する。加えて、研究成果の発表を行う。 | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 自身が研究するテーマを確定し、目的設定をする ② 先行研究および用語の定義を調査する ③ 研究方法を検討し、研究の構成を考える ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成する ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表する | | | | ① 自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる ② 先行研究および用語の定義を調査することで、知識の獲得ができる ③ 獲得した知識を活用して研究方法を検討し、研究構成を構築することができる ④ 執筆において生まれる課題を抽出し、その課題を解決するための考察をまとめ、論文を完成させることができる ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表することができる | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 到達目標を設定し、自ら研究に取り組むことができる。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 研究遂行のために、必要な事項の調査や資料収集を行うことができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 研究テーマを調査するにあたり、重要になる課題を見極めることができる。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 固定概念に捉われることなく、多角的・多面的に考えることができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 研究調査した内容を的確な文章で表現できる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | 他者の意見を受け入れるながら、自分の意見を述べることができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 円滑に研究が進行するよう、ゼミで決めたルールを遵守することができる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| テキスト：使用しません。 参考文献：卒業研究のテーマにあわせて参考文献を紹介します。 | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 卒業研究は、これまで学んできた集大成として位置付けられており、全科目と関連する卒業必修科目である。また、資格取得には関連しない。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 前期は、週1回のゼミナールを行います。 後期は、個別指導の形式とします。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ゼミナールの無断欠席は認めない。 研究調査をレジュメにまとめ毎回持参すること。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|--------------------|-------|------|---|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | |
| | | | | ② | | |
| | | | | ③ | | |
| | | | | ④ | | |
| | | | | ⑤ | | |
| | 平常評価 | 小テスト | 0 | ① | | |
| | | | | ② | | |
| | | | | ③ | | |
| | | | | ④ | | |
| | | | | ⑤ | | |
| 平常評価 | レポート | 0 | ① | | | |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | | | ④ | | | |
| | | | ⑤ | | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | 論文及び発表から以下の点を評価します。 ・論文では「テーマに沿った目的」を明確にした上で、目的に適した「方法」を選択し、読み手にわかりやすく執筆することができる。 ・発表では研究内容を聞き手に向かって、わかりやすく伝えることができる。 | |
| | | | ② | ✓ | | |
| | | | ③ | ✓ | | |
| | | | ④ | ✓ | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | <small>（主体性）</small> 到達目標を設定し、自ら研究に取り組むことができる。 <small>（実行力）</small> 研究遂行のために、必要な事項の調査や資料収集を行うことができる。 <small>（課題発見力）</small> 研究テーマを調査するにあたり、重要になる課題を見極めることができる。 <small>（創造力）</small> 固定概念に捉われないことなく、多角的・多面的に考えることができる。 <small>（発信力）</small> 研究調査した内容を的確な文章で表現できる。 <small>（傾聴力）</small> 他者の意見を受け入れるながら、自分の意見を述べることができる。 <small>（規律性）</small> 円滑に研究が進行するよう、ゼミで決めたルールを遵守することができる。 | |
| | | | ② | ✓ | | |
| | | | ③ | ✓ | | |
| | | | ④ | ✓ | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | |
| 総合評価割合 | | | 100 | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|---|
| <p>・「テーマに沿った目的」を明確にした上で、目的に適した「方法」を選択し、読み手にわかりやすい論文を執筆することができた。</p> <p>・発表では研究内容を聞き手に向かって、わかりやすく伝えることができた。</p> <p>※上記2点に沿った形で成果を出せた学生にはレベルA(優)評価を与え、研究内容の斬新さや表現の独特さがある場合にはレベルS(秀)評価とする。</p> | <p>・指定された期限までに提出物（テーマ、発表要旨、論文等）を提出することができた。</p> <p>・論文では「目的」を明確にした上で、論文を書きあげることができた。</p> <p>・発表では指定時間内に研究内容を伝えることができた。</p> <p>※上記において成果を出した学生にはレベルB(良)評価で、それよりも低い場合はレベルC(可)評価とする。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|---|---------|---------------------------------------|---|-------|--|
| 1-5 | 研究テーマを確定するためのプレ調査研究 自分の研究したいことをインターネットを用いて収集する | ゼミナール | 研究テーマを確定するためのプレ研究のレジュメを作成できる | (予習) プレ研究のレジュメを作成する (復習) ゼミメンバーと指導教員のアドバイスを整理して、次回のレジュメのための資料を作成する | 180 | 主体性 実行力 計画力 発信力 規律性 |
| 6-10 | 先行研究及び用語の定義を調査する 自分の研究したいことをインターネットを用いて収集する | ゼミナール | 用語の定義を調査し、一覧表にまとめることができる | (予習) 目的に関連する用語の定義を調査する (復習) 用語の定義を一覧表にまとめる | 180 | 主体性 実行力 計画力 発信力 規律性 |
| 11-15 | 研究方法を検討し、研究の構成を考える 自分の研究したいことをインターネットを用いて収集する | ゼミナール | 研究の進め方を理解し、論文構成を考慮することができる | (予習) 研究構成を構築する (復習) 論文構成に従い資料を収集する | 180 | 主体性 実行力 計画力 創造力 発信力 規律性 |
| 16-25 | 結果及び考察をまとめ、論文を作成する 自分の研究したいことをインターネットを用いて収集する | 個人指導 | 論旨の一貫性を遵守し、伝えたい研究内容を執筆できる | (予習) 資料を駆使して論文を執筆する (復習) 修正部分を手直しして、次回のための文章作成を行う | 180 | 主体性 実行力 計画力 創造力 発信力 規律性 |
| 26-30 | 卒研発表会で発表する資料を作成し、発表する | 個人指導 | 論文内容を簡潔に整理し、発表資料を作成できる 卒研発表会で発表できる | (予習) 発表資料を作成する (復習) 発表のための事前練習をする | 180 | 主体性 実行力 計画力 創造力 発信力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-------------|--|------------------|---|-----|--------|---------|
| 330743148C | 卒業研究(小倉弘之) | 小倉弘之 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| 4年間の学びの集大成として、DP3・5を踏まえ自ら興味を持ったテーマに主体的に関り、学術的な根拠を基に探求、調査を推し進め最終的に研究論文にまとめる。計画、実行、課題発見、解決を繰り返しながら論文執筆、プレゼンテーションを行う能力を養う。テーマは主に、英語教育に関するもの、及び小学校教育（主に学習指導・教師教育）に関するものを取り扱う。 | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにする。 ② 研究課題から研究目的を明らかにする。 ③ 研究目的にそって研究計画を立案する。 ④ 研究計画に基づいて調べたり、実践したりする。 ⑤ 論文・スライドを作成し発表を行う。 | | | | ① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにすることができる。 ② 研究課題から研究目的を明らかにすることができる。 ③ 研究目的にそって研究計画を立案することができる。 ④ 研究計画に基づいて調べたり、実践したりできる。 ⑤ 論文・スライドを作成し発表を行うことができる。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 到達目標達成に向けて、指示がなくても課題を自ら見つけ取り組むことができる | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 目標達成のため、手順や方法を考え実行することができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 調査結果や収集データを、先入観や常識に囚われずグローバルな視点で検討、解釈することができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 整理した内容を的確な文章で表現したり、グループ討議、発表の際に、自らの意見を整理して伝えることができる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | 聞き取り調査、グループ討議、発表等の際に、情報や他の人の意見に主体的に耳を傾けることができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 計画に基づき、期限厳守で目標達成に向け行動することができる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 必要に応じて参考文献を紹介します。 | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 本科目は卒業必修科目であり、それまでに学んだ全ての科目をもとに大学での学びの集大成となる科目です。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| 4年間の学修の集大成として研究論文を作成するために他の授業、就職活動と並行して努力すること。 | | | | 期限厳守です。担当教員への報告、連絡、相談を怠らず、計画的に取り組むこと。同じゼミの仲間として互いに支援・切磋琢磨していくこと。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | |
|-----------------------|--------------|--------------------|-------|------|---------------------------------|---|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | |
| | | | | ② | | | |
| | | | | ③ | | | |
| | | | | ④ | | | |
| | | | | ⑤ | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | | 0 | ① | | |
| | | | | | ② | | |
| | | | | | ③ | | |
| | | | | | ④ | | |
| | | | | | ⑤ | | |
| | | レポート | | 30 | ① | ✓ | |
| | | | | | ② | ✓ | |
| | | | | | ③ | ✓ | |
| | | | | | ④ | ✓ | |
| | | | | | ⑤ | ✓ | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | | 60 | ① | ✓ | | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|---|
| <p>A(優)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された期限までに提出物を提出することができた。 論文では「目的」を明確にしたうえで、目的に適した「方法」を選択し、「結果、考察、まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができた。 発表では指定時間内に聞き手にわかりやすく伝えることができた。 <p>S(秀)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記3点に加え、研究内容に独自性があり、学生の前で工夫しながら発表できた場合にS(秀)評価とする。 | <p>B(良)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された期限までに提出物を提出することができた。 論文では「目的」を明確にした上で、「方法、結果、考察、まとめ」を書くことができた。 発表では指定時間内に研究内容を伝えることができた。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|------------------|---|--|-------|---|
| 1-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間の見通しを立てる。 ・図書館において、文献検索方法について学ぶ。 ・過去のテーマを検索する。 ・研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。 | 討議 調査 | 自らの研究課題を明確にすることができる。 | (予習) 研究テーマを検討する。 (復習) 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 3-5 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館において、文献検索方法について学ぶ。 ・過去のテーマを検索する。 ・研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。 | 討議 個別指導 調査 | 先行研究を読み込み、研究課題の方向性を確定できる。 | (予習) 先行研究を読む。 (復習) 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-8 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの決定と研究計画書の作成を行う。 ・研究課題を明確にし、研究目的、方法、内容について計画を行う。 | 討議 個別指導 | 討議を行いながら研究課題を決定し、研究計画書を作成することができる。 | (予習) 研究計画を立てる。 (復習) 研究課題を明確にし研究目的、方法、内容について計画を行う。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 9-10 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの決定と研究計画書の作成を行う。 ・調査研究を行うフィールドを調整する。 ・基になる文献の分析方法を考える。 | 個別指導 実地調査 | 研究の計画書を作成し、調査研究を行うフィールドを調整することができる。 研究の基となる文献の分析方法が理解できる。 | (予習) 研究計画を立てる。 (復習) 研究課題を明確にし研究目的、方法、内容について計画を行う。 (予習) 調査の準備をする (復習) 研究方法を検討し、調査を行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-13 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法の検討 ・アンケートの方法で取り組む場合は項目の検討、取材の方法で取り組む場合には相手方との折衝を行う。 ・基になる文献を確定する。 | 討議 個別指導 | 討議を行いながら研究課題を達成するための研究方法を考えることができる。 アンケートの方法で取り組む場合は項目の検討、取材の方法で取り組む場合には相手方との折衝を行うことができる。 基になる文献の分析を進めることができる | (予習) 調査の準備をする。 (復習) 研究方法を検討し、調査を行う。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 14-15 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究方針の基づいて実地調査を行う。 ・記録の分析方法を知る。 | 個別指導 | 実地調査記録の分析方法が理解できる。 | (予習) 調査の準備をする。 (復習) 記録の分析を進める。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの集計及び、取材のまとめをする。 ・基になる作品の文章分析をする。 ・論文執筆要領を理解する。 ・論文執筆を進める。(※必要に応じてGoogle Meetなども活用) | 個別指導 講義 | 調査結果のまとめ及び、文章分析の方法を理解し、執筆内容の把握ができる。 目次を立て、各章における執筆内容を把握することができる。 論文を書き進めることができる。 | (予習) 調査結果をグラフにし、考察を進め、論文執筆をする。 (復習) グラフの考察から文章分析を箇条書きにし、論文執筆要綱に則り、論文を作成する。 | 180 | 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 21-25 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の作成、抄録の作成 ・文章の推敲 | 個別指導 | 文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができる。 | (予習) 論文執筆する。 (復習) 論文執筆要綱に則り、論文を作成する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|------------|---|--|-------|---|
| 26-29 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の仕上げ、抄録の作成 発表のためのパワーポイント作成 発表原稿の作成 | 個別指導 | <p>文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができる。文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができ、発表のための論文要旨がまとめられる論文の内容を発表時間に合わせて話すための筋書きができる。見やすいパワーポイントができ、所定の時間内に発表ができるよう練習することができる</p> | <p>(予習) 論文執筆し、発表のためのパワーポイントを作成する。 (復習) 論文執筆要綱に則り、論文を作成し、時間内に発表する練習をする。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 30 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究提出の準備をし、研究発表の練習をする。 | 討議 個別指導 | <p>見やすいパワーポイントができ、所定の時間内に発表ができるよう練習することができる。</p> | <p>(予習) 時間内に発表する練習をする。 (復習) 論文を見直し提出する。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|------------|-------------|-------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 330743148D | 卒業研究(伊藤久美子) | 伊藤久美子 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |

科目の概要

本学のディプロマポリシーDP②、③に記載している現代のこどもの生活問題に対する認識と現実の保育および教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、現代の子育て問題や教育再生、地域再生に取り組むことができ、自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献しようとする姿勢を持つ保育者の育成を目指します。
大学における幼児教育・保育の学びのまとめとして、自らの興味と関心をもったテーマを設定し、先行研究や文献から主体的に情報を収集して探究し、得られた結果をまとめ、論文を執筆します。研究を進める中で、論理的な思考、内容を正確に伝達する表現力を身につけ、研究内容や結果を学内の卒業研究発表会で発表します。

| 学修内容 | 到達目標 |
|--|--|
| ① 幼児教育・保育に関連するテーマを確定し、目的を設定する。 ② 先行研究および用語の定義を調査する。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を考える。 ④ 収集したデータを分析し、考察してまとめる。 ⑤ 論文を作成し学内の発表会で発表する。 | ① 自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ② 先行研究および用語の定義が調査できる。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を構築できる。 ④ 収集したデータを分析して考察してまとめることができる。 ⑤ 論文を作成し、学内の発表会で発表することができる。 |

| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | |
|---------------------|---------------------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 主体的に設定したテーマをもとに、発表準備における該当課題について積極的に取り組むことができる。 |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 既習科目や実習経験、文献やインターネットの情報を活用し、研究を遂行するために粘り強く、強い意志をもって取り組み続けることができる。 |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 研究内容や発表における疑問点や自分に不足している知識または技能を認識して、情報収集や分析を行ったり、課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めたりすることができる。 |
| | 計画力 | |
| | 創造力 | 研究を進めるなかで得た子どもを取り巻く今日的課題を見出し、必要な保育の意義を考え、理想の保育者としての自分の姿をイメージして新たな保育観や保育方法を探求することができる。 |
| チームで働く力 | 発信力 | 自身の研究について分かりやすく整理してまとめたことを論文にすることができ、相手に分かるように内容を説明したり、発表することができる。 |
| | 傾聴力 | 討議や発表を聞くときは、相手の意見を正確に理解したり、疑問について質問をしたりすることができる。また共感的な姿勢で相手の考えを引き出し、他者からの意見を素直に受け止めることができる。 |
| | 柔軟性 | |
| | 状況把握力 | |
| | 規律性 | 研究を行う上でふさわしい態度や期日の厳守等の必要性、重要性を理解し、遵守することができる。 |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献

テキストは使用しない。
研究のテーマにあわせて参考文献を紹介します。

他科目との関連、資格との関連

卒業研究(330743148D)は、全ての既修科目で修得した知識、実践力を基としてディプロマポリシーの修得に結び付く集大成の科目である。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|---|--|
| 大学の学びの集大成となる論文を作成するために、自身の得た知識を十分に発揮できるように主体的に取り組む態度で臨みましょう。前期は、週1回のゼミナールを行います。後期は、主に個別指導の形式とします。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題等は期限を守って提出すること。 無断欠席をしないこと。 |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|-------|------|---------------------------------|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | | | ⑤ | | |
| | 小テスト | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | | | ⑤ | | |
| レポート | 0 | ① | | | |
| | | ② | | | |
| | | ③ | | | |
| | | ④ | | | |
| | | ⑤ | | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| | | | ⑤ | ✓ | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| | | | ⑤ | ✓ | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|---|
| <p>(S)</p> <p>①自身が研究するテーマを意欲的かつ明確に確定し、計画的に目的設定ができる。</p> <p>②先行研究および用語の定義を広く確実に調査できる。</p> <p>③研究方法を広く検討し、研究計画に基づいて論文の構成を正確に構築できる。</p> <p>④考察を客観的根拠に基づいてわかりやすくまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。</p> <p>⑤研究内容を学内の発表会でわかりやすく学術的に発表することができる。</p> <p>(A)</p> <p>①自身が研究するテーマを明確に確定し、計画的に目的設定ができる。</p> <p>②先行研究および用語の定義を広く調査できる。</p> <p>③研究方法をと研究計画を立て、論文の構成を正確に構築できる。</p> <p>④考察をわかりやすくまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。</p> <p>⑤研究内容を学内の発表会でわかりやすく発表することができる。</p> | <p>(B)</p> <p>①自身が研究するテーマを確定し、計画的に目的設定ができる。</p> <p>②先行研究および用語の定義を自主的に調査できる。</p> <p>③研究方法を検討し、論文の構成を考えることができる。</p> <p>④考察をまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。</p> <p>⑤研究内容を学内の発表会で自分なりに発表することができる。</p> <p>(C)</p> <p>①自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。</p> <p>②先行研究および用語の定義が調査できる。</p> <p>③研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。</p> <p>④考察をまとめ、論文として執筆することができる。</p> <p>⑤研究内容を学内の発表会で発表することができる。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|---|--|---|--|-------|---|
| 1-5 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究のスケジュールを立てる。 ・研究テーマを確定するため、過去のテーマを検索する。 ・研究倫理について学ぶ。 ・研究の動機と目的を明確にする。 | ゼミナール google classroomにて フィードバック | 研究テーマを確定するため、過去のテーマを検索し研究の動機と目的を明確にすることができる。 | (予習) 自分の興味があるテーマを調べて検討してくる。 (復習) 指導教員及びゼミのメンバーからのアドバイスを整理して、記録する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを確定し、研究計画書の作成を行う。 ・テーマに基づいて先行研究および用語の定義を調査する。 ・研究の内容と方法について検討する。 | ゼミナール | <ul style="list-style-type: none"> ・用語の定義を調査し、一覧表にまとめることができる。 ・研究の内容と方法について考えることができる。 | (予習) 目的に関連する用語の定義を調査する。 (復習) 用語の定義を一覧表にまとめる。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-15 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査などの記録方法について考える。 ・フィールドの調整を行い、調査をする。 ・記録の分析方法について考える。 ・論文の構成を考える。 | ゼミナール google classroomにて フィードバック | 研究の進め方を理解し、論文構成を考慮することができる。 | (予習) 研究の構成を構築する。 (復習) 論文構成に従い資料を収集する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-25 | <ul style="list-style-type: none"> ・データの集計及び分析を行う。 ・結果及び考察をまとめ、論文を作成する。 | 個人指導 google classroomにて フィードバック | 論旨の一貫性を遵守し、伝えたい研究内容を執筆できる。 | (予習) 資料を駆使して論文を執筆する。 (復習) 修正部分を手直しして、次回のための文章作成を行う。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 26-30 | 卒研発表会で発表する資料を作成し、発表する。 | 個人指導 ゼミナール google classroomにて フィードバック | 論文内容を簡潔に整理し、発表資料を作成できる。 卒研発表会で発表できる。 | (予習) 発表資料を作成する。 (復習) 発表のための事前練習をする。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|---------------------------------|--|------------------|--|-----|--------|---------|
| 330743148E | 卒業研究（松橋） Graduation Research | 松橋俊輔 | | 専門 | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| <p>本科目では、各自が研究テーマを設定し、文献研究によって卒業論文を執筆する。担当者の専門領域は教育思想史・教育哲学だが、教育に関わるテーマの文献研究であれば、倫理学、歴史学、社会学、政治学、宗教学等の知見を取り扱うことも考えられる。本科目は、4年間の学びの集大成としてDP1～3のすべてに関連している。</p> | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 研究テーマを主体的に設定し、研究課題を発見する。 ② 研究テーマを具体化するために必要な資料や文献を調査する。 ③ 研究課題を明らかにするための研究調査を行う。 ④ 研究成果を卒業論文としてまとめる。 ⑤ 卒業論文の概要をプレゼンテーションする。 | | | | ① 研究テーマを卒業論文の題目として示すとともに、研究課題を明示することができる。 ② 研究テーマとその課題に関わる先行研究を整理し、適切な形でまとめることができる。 ③ 研究を遂行して課題に対して自分なりの解答を発見することができる。 ④ 論文としてふさわしい形式を備えた論文を完成させることができる。 ⑤ 卒業論文の概要を分かりやすく口頭発表することができる。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 自分自身の関心に沿ってテーマと課題を発見し、進んで研究を進める。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 積極的に文献を収集し、恐れることなく原稿の執筆を進める。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 自らが学び気づいたことを学士論文にまとめるために必要な要素を考え見出す。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 卒業論文の問いと答えの構造や論の展開をねばり強く構想する。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 論旨や展開の明確な文章を書き、明快な発表をする。 | | | | | |
| | 傾聴力 | 文献の語りかけるものに虚心に耳を傾けるとともに、他のゼミ生の研究に関心を持って学び質問や意見で貢献しようとする。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 研究作業を後回しにすることなく、余裕をもって計画的に取り組む。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 適宜、指示・配布する。 | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 本学部・学科における学びのすべてを締めくくるための科目である。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| 自分自身の感性や関心を大切にしつつ、同時に、論文としてまとめるためにそれを客観的に捉えようとする視点を持つことが重要です。また、その都度、研究遂行上の課題を明確に捉え直しつつ進みましょう。 | | | | 卒業論文の執筆は、思考と言葉の訓練であるのみならず、情報・時間・自己のマネジメントの訓練でもあり、自分自身を客観的に理解するための契機でもありえます。この機会を受講生全員が活かすことができるよう、互いに暖かく耳を傾け合って支え合い、安心して研究と向き合うことのできるゼミにしましょう。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | |
|-----------------------|--------------|--------------------|-------|------|---------------------------------|---|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | |
| | | | | ② | | | |
| | | | | ③ | | | |
| | | | | ④ | | | |
| | | | | ⑤ | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | | 0 | ① | | |
| | | | | | ② | | |
| | | | | | ③ | | |
| | | | | | ④ | | |
| | | | | | ⑤ | | |
| | | レポート | | 70 | ① | ✓ | |
| | | | | | ② | ✓ | |
| | | | | | ③ | ✓ | |
| | | | | | ④ | ✓ | |
| | | | | | ⑤ | | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | | 20 | ① | | | | |
| | | | ② | | | | |
| | | | ③ | | | | |
| | | | ④ | | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|---|
| <p>到達レベルS 研究のテーマ・課題が明示されたうえで、先行研究を明快に整理し、説得的な解答を明確に示している。それに際して、学術論文としての体裁が守られ、主張の合理的な根拠が示されており、論理展開に問題がない。また、論文の概要を他の受講生に伝わるように発表できている。</p> <p>到達レベルA 研究のテーマ・課題が明示されたうえで、先行研究を整理し、解答を明確に示している。それに際して、学術論文としての体裁が守られ、主張の根拠が示されており、論理展開におおよそ問題がない。また、論文の概要を他の受講生に伝わるように発表できている。</p> | <p>到達レベルB 研究のテーマ・課題を示したうえで、先行研究と関係づけながら、解答を示している。それに際して、学術論文としての体裁がおおよそ守られ、主張を根拠づけようとする努力がみられる。また、論文の概要を簡潔にまとめて発表できている。</p> <p>到達レベルC 研究のテーマ・課題を示したうえで、先行研究に触れながら、解答を示そうとしている。それに際して、学術論文としての体裁がおおよそ守られ、主張を根拠づけようとする努力がみられる。また、論文の内容を発表できている。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|---|---|--------------------------------------|---|-------|---|
| 1-5 | テーマの決定 —ガイダンス —ブレインストーミング —文献調査 —テーマの決定と研究課題草案の提出 | 演習 ICTを活用した調査 各自作業へのフィードバック | 自らの関心に沿ってテーマを設定し、研究課題の候補を挙げる事ができている。 | (予習)・(復習) 関連文献を調査し研究テーマ及び研究課題を案出する。 | 900 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | 先行研究調査 —先行研究の調査と発表 —研究課題案の発表 | 演習(発表・ディスカッションを含む) ICTを活用した調査 各自作業へのフィードバック | 先行研究の調査をふまえて研究課題の案を発表できている。 | (予習)・(復習) 先行研究を調査して発表準備をし、研究課題を案出する。 | 900 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-15 | 研究課題の決定とアウトラインの作成 —アウトラインの作成・発表 —研究課題の決定 —論文のルールの確認 | 演習 各自作業へのフィードバック | アウトラインの草案を作成し研究課題を決定できている。 | (予習) アウトラインを作成して研究課題を決定する。 (復習) 論文のルールを確認しながら、本体部分の執筆を始める。 | 900 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | 本論の執筆 —論文本体部分の執筆 —中間発表 —フィードバックを踏まえた執筆の継続 | 演習 個人指導 各自作業へのフィードバック | 論文の本体部分を半分以上執筆できている。 | (予習)・(復習) 論文本体部分を執筆し、中間発表へのフィードバックを踏まえて加筆・訂正する。 | 900 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 21-25 | 論文の完成 —序論・結論の執筆 —論文の体裁の確認 | 演習 個別指導 各自作業へのフィードバック | 論文を完成させることができている。 | (予習)・(復習) 序論・結論部分を執筆し、論文としての体裁を整えながら全体を推敲して完成させる。 | 900 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 26-30 | 研究発表 —発表資料を作成する —研究内容を発表する | 演習 各自作業へのフィードバック | 研究内容を発表することができている。 | (予習) 発表資料を作成する。 (復習) 必要に応じて論文を加筆修正・推敲する。 | 900 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|--|-------------|---|------------------|--|-----|--------|---------|
| 330743148F | 卒業研究(黒谷万美子) | 黒谷万美子 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| この科目はDP2. 3に記載されている子どもの生活学科の教育目標である人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成する科目として設定されている。4年間での学びの集大成として主体的に課題を選択し、研究過程を通して、科学的アプローチを学ぶことを目的とする。テーマとしては、保健・公衆衛生に関するものを主とする。研究課題を明らかにしたうえで、研究目的、研究計画を立案し、データ集計・分析を行う。 | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにする ② 研究課題から研究目的を明らかにする ③ 研究目的にそって研究計画を立案する ④ 研究計画に基づき調査しデータ集計・分析を行う ⑤ 論文・抄録を作成し発表を行う | | | | ① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにすることができる ② 研究課題から研究目的を明らかにすることができる ③ 研究目的にそって研究計画を立案することができる ④ 研究計画に基づき調査しデータ集計・分析・考察を行うことができる ⑤ 論文・抄録を作成しその中で課題の解決作を提案・考察し発表を行うことができる | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 到達目標達成に向けて、指示がなくても課題を自ら見つけ取り組むことができる | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 課題達成のための手順や方法を考え発表等、行動をすることができる | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 物事を考える際に、様々な方向から考えることができる | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 整理した内容を的確な文章で表現し、分かりやすく発表するとともに対象を理解して伝えることができる | | | | | |
| | 傾聴力 | グループ調査や発表時、内容確認や質問を行い、正確に理解するとともに話しやすい状況を作ることができる | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 計画に基づき抄録・論文提出等の期限やルールを守ることができる | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 適宜、プリントを配布する | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 他教科との関連:「卒業研究」は学科専門科目として設定されており、履修した全科目で獲得した知識・技術を活用する。 関連する資格:なし | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| 4年間の修学の集大成として研究論文を作成するために他の授業、就職活動と並行して努力すること。研究することの喜びや楽しさを感じてもらいたい。 | | | | 主体的に担当教員と連絡、相談を繰り返しながら、計画的に取り組むこと | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|--------------------|-------|------|---|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | |
| | | | | ② | | |
| | | | | ③ | | |
| | | | | ④ | | |
| | | | | ⑤ | | |
| | 平常評価 | 小テスト | 0 | ① | | |
| | | | | ② | | |
| | | | | ③ | | |
| | | | | ④ | | |
| | | | | ⑤ | | |
| 平常評価 | レポート | 0 | ① | | | |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | | | ④ | | | |
| | | | ⑤ | | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | 研究発表の際に効果的な媒体を作為し、相手に分かりやすく伝える。また限られた時間を有効に使い、質問に的確に答えることが求められる。1年間の研究結果として研究目的に沿った内容、結果、考察になっていることが必要である。統計分析が誤りなく結果に反映されているか、先行研究論文からの考察が不可欠である。 知識の獲得(解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにする):50% 知識の活用(研究目的にそって研究計画を立案・調査しデータ集計・分析を行う):30% 課題解決(論文・抄録を作成しその中で課題の解決作を提案・考察し発表を行う):20% | |
| | | | ② | ✓ | | |
| | | | ③ | ✓ | | |
| | | | ④ | ✓ | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力(学修態度) | 10 | ① | ✓ | 主体性：自ら主体性をもって学び続けることができる 実行力：課題達成のための方法を考え行動できる 課題発見力：様々な視点から課題をとらえることができる 創造力：様々な方向から物事を捉え考えることができる 発信力：意見を述べたり、発表したりできる 傾聴力：話を聴いたり、メモを取ったり学ぶ姿勢ができてい 規律性：研究計画に基づき、提出期限やルールを守ることができる | |
| | | | ② | ✓ | | |
| | | | ③ | ✓ | | |
| | | | ④ | ✓ | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|---|
| ① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにすることができる ② 研究課題から研究目的を明らかにすることができる ③ 研究目的にそって研究計画を立案することができる ④ 研究計画に基づき自ら調査しデータ集計・分析を十分にすることができる ⑤ 課題解決できる論文・抄録を作成し発表を行うことができる 総合評価80点以上90点未満の者。A以上の能力を有しているもの(総合評価90点以上)をSとする | ① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにすることができる ② 研究課題から研究目的を明らかにすることができる ③ 研究目的にそって研究計画を立案することができる ④ 研究計画に基づき調査しデータ集計・分析を行うことができる ⑤ 論文・抄録を作成し発表を行うことができる 総合評価70点以上80点未満の者。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|--|--|---|-------|---|
| 1-5 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・文献検索方法について学ぶ ・研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する | 文献検索オリエンテーション実施 ディスカッション | ディスカッションを行い、自らの研究課題を明らかにすることができる | 予習:研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する90分 復習:ワークシートにて不十分な項目について再度確認する90分 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題(テーマ)の決定と研究計画書の作成 ・研究課題を明らかにし研究目的、方法、内容について計画を行う | ディスカッション 課題提出(google classroomを利用したフィードバック) | ディスカッションを行いながら研究課題を決定し、研究計画書を作成することができる | 予習:研究課題を明らかにし研究目的、方法、内容について計画を行う90分 復習:ワークシートにて不十分な項目について再度確認する90分 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-15 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法の検討 ・アンケート調査表作成 ・倫理審査に必要な書類の準備、審査 ・アンケート調査実施 | ディスカッション | ディスカッションを行いながら研究課題を達成するための研究方法を考え、アンケート調査表作成、実施、倫理審査準備ができる | 予習:信頼性と妥当性のあるアンケート調査表を調べる。アンケート調査表を作成する。倫理審査の資料準備を行う90分 復習:ワークシートにて不十分な項目について再度確認する90分 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | <ul style="list-style-type: none"> ・データ入力・集計・分析 ・現地調査及び介入 | ディスカッション | ディスカッションを行いながらデータ入力・集計・分析することができる 課題達成のための現地調査及び介入を行うことができる | 予習:データ入力・集計・分析を行う。現地調査及び介入を行う90分 復習:ワークシートにて不十分な項目について再度確認する90分 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 21-25 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の作成、抄録の作成 | ディスカッション | ディスカッションを行いながら卒業論文、抄録を作成することができる | 予習:データ集計後の図表を作成し、卒業論文、抄録をまとめる90分 復習:ワークシートにて不十分な項目について再度確認する90分 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 26-30 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の作成、抄録の作成 | ディスカッション | ディスカッションを行いながら卒業論文、抄録を作成することができる | 予習:データ集計後の図表を作成し、卒業論文、抄録をまとめる90分 復習:ワークシートにて不十分な項目について再度確認する90分 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|------------|----------------------------------|------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 330743148H | 卒業研究(長拓実) Graduation Research | 長拓実 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |

科目の概要
 4年間での学びの集大成として、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成するために(DP1)、衣食住、子育てなどに関する実践的・体験的な研究活動を通して、研究結果をわかりやすく発表する知識と技能を身に付ける(DP3.5)。

| 学修内容 | 到達目標 |
|---|--|
| ① 研究テーマを選定し、目的を設定する ② 先行研究及び用語の定義を調査する ③ 研究方法を検討し、実験又は調査を行う ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成する ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表する | ① 研究テーマを選定し、目的を設定できる ② 先行研究及び用語の定義が調査できる ③ 実行可能な研究方法を検討し、実験又は調査を行うことができる ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成することができる ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表することができる |

| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | |
|---------------------|---------------------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 到達目標を達成するという目標に向かって指示が無くても、課題を自ら見つけて取り組むことができる。 |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 課題を仕上げるための手順や方法を考えて確実に目標に向かって進めることができる。 |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 |
| | 計画力 | |
| | 創造力 | 物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。 |
| チームで働く力 | 発信力 | 整理した内容を的確なことばや文章で表現できる。 |
| | 傾聴力 | 他者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 |
| | 柔軟性 | |
| | 状況把握力 | |
| | 規律性 | 無断欠席、遅刻など研究に支障をきたす行動をせず、円滑に進行するようルールを守ることができる。提出物を期限内に提出することができる。 |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献
 テキスト：使用しません。
 参考文献：卒業研究のテーマにあわせて参考文献を紹介することがあります。

他科目との関連、資格との関連
 他科目との関連：「卒業研究」は専門科目の卒研に配置されており、全ての科目で獲得した知識・技術を活用する。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|--|---------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> スケジュール管理は自分でしましょう。 卒業研究用のノートを準備すると便利です。 | やむを得ず欠席する場合は事前に連絡をしてください。 |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|-------|------|---------------------------------|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | | | ⑤ | | |
| | 小テスト | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | | | ⑤ | | |
| レポート | 0 | ① | | | |
| | | ② | | | |
| | | ③ | | | |
| | | ④ | | | |
| | | ⑤ | | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | 論文及び発表から以下の点を評価します。 ・指定された期限までに提出物（テーマ、発表要旨、論文等）を提出することができること。 ・論文では「目的」を明確にした上で、目的に適した「方法」を選択し、「結果、考察、まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができること。 ・発表では指定時間内に研究内容を聞き手にわかりやすく伝えることができること。 |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| | | | ⑤ | ✓ | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | （主体性）到達目標を達成するという目標に向かって指示が無くても、課題を自ら見つけて取り組むことができる。 （実行力）課題を仕上げるための手順や方法を考えて確実に目標に向かって進めることができる。 （課題発見力）事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 （創造力）物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。 （発信力）整理した内容を的確なことばや文章で表現できる。 （傾聴力）他者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 （規律性）無断欠席、遅刻など研究に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。提出物を期限内に提出することができる。 |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| | | | ⑤ | ✓ | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| <p>・指定された期限までに提出物（テーマ、発表要旨、論文等）を提出することができる。</p> <p>・論文では「目的」を明確にしたうえで、目的に適した「方法」を選択し、「結果、考察、まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができる。</p> <p>・発表では指定時間内に研究内容を聞き手にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>上記3点に到達した場合A（優）とする。さらに下記の1点ができた場合をS（秀）評価とする。</p> <p>・スライドはシンプルであり、相手に伝わるような内容で構成されており、相手に伝わるように配慮して発表し、質疑応答に対し、適切に応えることができる。</p> | <p>・指定された期限までに提出物（テーマ、発表要旨、論文等）を提出することができる。</p> <p>・論文では「目的」を明確にした上で、「方法、結果、考察、まとめ」を書くことができる。</p> <p>・発表では指定時間内に研究内容を伝えることができる。</p> <p>上記のうち、3点ができていた場合をBとする。 上記のうち、2点ができていた場合をCとする。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|------------|--|--|-------|--------------------------|
| 1-5 | 1 研究テーマの選定と目的の設定 研究テーマを選定し、目的を設定する | 個人指導又は集団討議 | 研究テーマを選定することができる 目的を設定することができる | (予習) 研究テーマの候補を考える (復習) 研究テーマから目的を絞る | 120 | 主体性 実行力 発信力 規律性 |
| 6-10 | 2 先行研究及び用語の定義の調査 先行研究及び用語の定義を調査する | 個人指導又は集団討議 | 目的に関連する先行研究を調査することができる 用語の定義を調査することができる 一覧表にまとめることができる | (予習) 目的に関連する先行研究を調査する 目的に関連する用語の定義を調査する | 120 | 主体性 実行力 発信力 規律性 |
| 11-20 | 3 研究方法の検討と実験又は調査 研究方法を検討し、実験又は調査を行う | 個人指導又は集団討議 | 適切な研究方法を検討し、実験又は調査を実行できる | (予習) 研究方法を検討する (復習) 実験又は調査を行う | 120 | 主体性 実行力 発信力 規律性 |
| 12-25 | 4 結果及び考察のまとめと論文の作成 結果及び考察をまとめ、論文を作成する | 個人指導又は集団討議 | 結果を集計・解析し、考察をまとめる 指定された様式に則り、論文を作成する | (予習) 論文執筆要綱を確認する (復習) 結果を集計し、解析をする 論文執筆要綱に則り、論文を作成する | 120 | 主体性 実行力 発信力 規律性 |
| 26-30 | 5 研究内容の発表(オンラインデマンド) 研究内容を学内の発表会で発表する | 個人指導又は集団討議 | 研究内容をまとめた発表要旨、資料、発表原稿を作成する 発表会で研究内容を発表する | (予習) 発表要旨、資料、発表原稿を作成する (復習) 質疑応答の内容に応じて論文を修正する | 120 | 主体性 実行力 発信力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|------------|---------------------------------|------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 330743148I | 卒業研究(高田) Graduation Research | 高田由基 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |

科目の概要

DP2・3に記載されている教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、自己の可能性を高め社会に貢献しようとする学生の育成を目指す。
そのために本科目は4年間の学びの集大成として、①自ら研究テーマを設定し、②設定した研究テーマ解明のために必要な文献や先行研究を主体的に収集し、③研究仮説検証のための調査研究活動の結果を検討し考察を加え、④論理的な思考力を働かせながら卒業論文を完成させていく。
テーマは主に体育・健康あるいは、学校教育に関するものとする。それらの現状や課題を明確にし、①～④に従い卒業論文を完成させ、研究成果の発表を行う。

| 学修内容 | 到達目標 |
|---|--|
| ① 体育・健康、学校教育に関する現状と課題を課題を明確にし、研究テーマを設定する。 ② 研究テーマに関する文献や先行研究を収集する。 ③ 研究方法を検討し、調査研究活動を行う。 ④ 研究結果とその考察を行い、論文を作成する。 ⑤ 研究内容や結果を学内の卒論発表会で発表する。 | ① 体育・健康、学校教育に関する現状と課題を課題を明確にし、研究テーマを設定することができる。 ② 研究テーマに関する文献や先行研究をCini等の情報検索システムや図書館の蔵書等を活用し収集することができる。 ③ 予備調査によって抽出された課題を、これまでの知識や情報等を活用して再検討し、本調査研究活動を行うことができる。 ④ 研究結果とその考察を行い、論文を作成させることができる。 ⑤ 研究内容や結果を学内の卒論発表会で発表することができる。 |

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

| | | |
|---------|-------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 自ら研究テーマを設定し、研究に取り組むことができる。 |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 研究遂行のために必要な文献や先行研究を収集することができる。 |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 研究テーマに関する現状を把握し、課題を明確にすることができる。 |
| | 計画力 | |
| | 創造力 | 上記で抽出された課題に対し、多面的・多角的に結果を考察し、新たな課題とその解決法を考えることができる。 |
| チームで働く力 | 発信力 | 調査研究した内容を的確な文章で表現するとともに、プレゼンテーション技法を用いて発表することができる。 |
| | 傾聴力 | 他者の意見や考えを聴き、様々な見方や考え方があることを理解し、自分の研究に生かすことができる。 |
| | 柔軟性 | |
| | 状況把握力 | |
| | 規律性 | 卒業研究が円滑に進行するように、ゼミ内で決めた規則やルールを遵守できる。 |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献

テキストは使用しない。
参考文献や先行研究を適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

資格との関連：小学校教諭、幼稚園教諭、保育士

4年間の学びの集大成である。これまで学んできたすべての科目と関連をもっているが、こどもの生活学科の卒業研究であることから、子どもの生活に関するもの（「こども生活学」等）や教育学系の科目（「教育方法論」等）、そして教科教育学系の科目（「体育科教育法」「体育科研究」等）を基盤として位置づけられている。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|--|--|
| 4年間の学びの集大成である。従って、ただ参加しているだけではなく、毎回指定された課題の報告を行うこと。それだけでなく、自ら文献や先行研究を収集するなどして、その内容を発表すること。 主体的で能動的な態度で、授業に臨むこと。 | <ul style="list-style-type: none"> ゼミの欠席厳禁。 毎回の課題報告を行うこと。 授業で指示される課題の提出期限を遵守すること。 |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | | |
|-----------------------|--------------|--------------------|-------|------|---|--|---|---|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | | |
| | | | | ② | | | | |
| | | | | ③ | | | | |
| | | | | ④ | | | | |
| | | | | ⑤ | | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | | 0 | ① | | | |
| | | | | | ② | | | |
| | | | | | ③ | | | |
| | | | | | ④ | | | |
| | | | | | ⑤ | | | |
| | | レポート | | 80 | ① | | ✓ | 卒業論文は、以下の点で評価する。 ・研究テーマの解明にあたり、研究目的を明確に示している。 ・研究仮説検証のための方法が有効である。 ・結果が明確に示され、結果をもとに考察が根拠をもって多面的・多角的に行われている。 |
| | | | | | ② | | ✓ | |
| | | | | | ③ | | ✓ | |
| | | | | | ④ | | ✓ | |
| | | | | | ⑤ | | ✓ | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | | 10 | ① | ✓ | 卒業論文発表は、以下の点で評価する。 ・プレゼンテーション技法活用し、聴き手に理解しやすい発表である。 ・制限時間を有効に活用した発表である。 ・質疑応答に対し、適切に返答する。 | | | |
| | | | ② | ✓ | | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | （主体性）自ら設定した研究テーマの課題解決に主体的に取り組むことができる。 （実行力）卒論を完成させるための手順や方法を考え、目標に向かって進めることができる。 （課題発見力）事実に基づき情報を客観的に検討し、課題を見極めることができる。 （計画力）いつまでに何をすべきかの観点で卒論完成までの流れを作成することができる。 （創造力）多面的・多角的な方向から物事を捉えることができる。 （発信力）卒業論文の内容を的確な方法や文章で表現できる。 （傾聴力）他者の意見や考えに耳を傾け、自らの考えを述べることができる。 （柔軟性）多方面から情報収集をしたり、新たな視点で考察を行ったりするなど、柔軟な発想で卒論に取り組むことができる。 （規律性）卒業研究が円滑に進行するように、ゼミ内で決めた規則やルールを遵守できる。 （ストレスコントロール力）運動やスポーツ、自分の趣味をもちストレスをコントロールして卒論に取り組むことができる。 | | | |
| | | | ② | ✓ | | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | | |
| 総合評価割合 | | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|---|
| ①体育・健康、学校教育に関する現状や課題を解明するために焦点化した研究テーマ、研究内容、研究方法を具体的に設定できた。 ②研究目的を明確にし、目的に適した方法を選択し、結果を多面的・多角的に考察し、卒論を作成できた。 ③研究内容をプレゼン技法を活用しながら聴き手に分かりやすく、かつ制限時間内に発表できた。 以上に加えて、上記の内容が秀でていたり、学会の学生発表会で発表できた場合はS（秀）とする。 | ①体育・健康、学校教育に関する現状や課題を解明するために研究テーマ、研究内容、研究方法を設定できた。 ②研究目的を明確にし、目的に適した方法を選択し、結果、考察、まとめの卒論を作成できた。 ③研究内容をプレゼン技法を活用しながら、制限時間内に発表できた。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|---|---|---|-------|--|
| 1-5 | ○オリエンテーション ○文献検索の方法を学ぶ。 ○体育・健康、学校教育の現状や課題の抽出を学ぶ。 ○抽出した課題をもとに、自分の興味・関心のある事象に関する文献や先行研究を検索し、レビューする。 | 1. 講義：卒業論文の進め方 2. 演習：先行研究、参考文献収集 3. 発表：各自が収集した先行研究と卒論計画の発表 | ・文献検索の仕方ができる。 ・ゼミでの討議に参加し、質問や意見を述べるができる。 ・ゼミでの討論から自らの研究課題を明確にすることができる。 | (予習) 卒論テーマとして考えていることとその理由をまとめてくる。 (復習) ゼミメンバーと指導教員のアドバイスをもとに、次回のレジュメのための資料を作成する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | ○研究テーマの決定と研究計画書を作成する。 ○研究課題を明確にし、研究目的・内容・方法を検討する。 | 1. 演習：研究計画書の作成 2. 発表と討議：研究内容、研究方法の発表と討議 | ・ゼミで討議を行いながら、研究活動を決定することができる。 ・研究課題をもとに研究目的を明らかにし、研究内容・方法を考えて研究計画書を作成できる。 | (予習) 研究テーマに関する文献や先行研究を収集する。 (復習) 研究目的・内容・方法を整理し、用語の定義を一覧に示す。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-15 | ○研究内容及び方法を検討する。 ・質問紙調査項目の検討 ・予備調査の実施と簡易分析 ・本調査用紙の作成と本調査の実施 | 1: 演習：調査用紙の作成 2: 発表と討議：調査用紙の内容及び予備調査・本調査の実施計画の発表と討議 | ・ゼミでの討議を行いながら、研究テーマを解明するための研究仮説を設定できる。 ・研究仮説の検証を行うための質問紙を作成できる。 ・予備調査結果に基づき、調査項目を修正し、本調査を実施できる。 | (予習) 研究テーマ解明に関する質問紙を作成する。 (復習) 先行研究の調査項目や予備調査結果をもとに本調査用紙を完成する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性 |
| 16-20 | ○パソコンの用いたデータ分析方法を学ぶ。 ○データ入力、集計、分析を行う。 ・各自のデータ分析に最も相応しい解析法を選択し、データ分析を行う。 | 1. 講義：統計分析方法 2. 演習：データ入力と分析 3. 発表と討議：データ入力結果の発表と内容についての討議 | ・パソコンを用いてデータ分析を行うことができる。 ・各自のデータ分析に最も相応しい解析法を用い、データ分析ができる。 | (予習) 先行研究で用いている分析手法を抽出してくる。 (復習) データ分析の結果を整理しておく。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力 |
| 21-25 | ○卒業論文を作成する。 ・結果の記載方法を学ぶ。 ・結果から読み取れることや考えられることを先行研究等と比較しながら、考察の書き方を学ぶ。 | 1. 講義：統計分析方法、論文の構成と書き方 2. 演習（個人作業）：論文作成 3. 演習（意見交換）：ペアでの卒論読み合い、疑問点等の発表 | ・データ分析した結果を本文に分かりやすく記載することができる。 ・結果から読み取れることや考えられることを先行研究等と比較しながら、考察を書くことができる。 | (予習) 既卒生の卒業論文を閲覧し、完成すべき卒論のイメージをもつ。 (復習) 研究内容、仮説、研究方法、結果及び考察を作成する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 ストレスコントロール力 |
| 26-30 | ○卒業論文及び要旨を完成する。 ○卒業論文発表用スライドの作成と発表練習を行う。 | 1. 講義：発表用スライド、卒論本文及び要旨の書き方 2. 演習（個人作業）：論文作成、発表スライド作成 3. 演習と討議：スライド発表をもとにした疑問点等の発表 | ・研究目的を解明する卒論であるかを吟味し、論文執筆ができる。 ・卒業論文発表用スライドの作成と発表練習を行う。 | (予習) 卒業論文の全体構想を考える。 (復習) ゼミメンバーや指導教員のアドバイスに基づき、論文及び発表用スライドを修正する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 ストレスコントロール力 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|--|-------------|--|------------------|---|-----|--------|---------|
| 330743148J | 卒業研究(信太寿理) | 信太寿理 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| DP1,2,3に記載されている、現代の子どもの生活問題に対する認識及び、専門的技術・技能を身につけ、自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、社会人基礎力も習得した教育者・保育者の育成を目指す。 そのために、この科目では、4年間での学びの集大成として、心理学の観点からテーマを設定する。文献の追及や質問紙調査・アンケート等の実証研究を通して、自分の中にある疑問や考えを形にする楽しさや、今後の将来役に立つような知識や方法を蓄積することを目的とする。 | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 現代社会における心の問題や、解決すべき課題について確認する ② 研究課題から研究目的を提示する ③ 研究目的にそって研究計画を立案する ④ 研究計画に基づき調査し先行研究の蓄積、データ収集・分析を行う ⑤ 論文を執筆し発表を行う | | | | ① 現代社会における心の問題について着目し、自身が解決すべき課題について説明できる ② 研究課題から研究目的を説明できる ③ 研究目的にそって研究計画を立案し説明できる ④ 研究計画に基づき調査し先行研究の蓄積、データ収集・分析を行うことができる ⑤ 論文・抄録を執筆し、発表を行うことができる | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 研究課題と到達目標を設定し、自ら研究に取り組むことができる。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 研究遂行のために、必要な事項の調査や資料収集を行うことができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 研究を行うにあたり、自身の体験だけでなく、先行研究から重要となる課題を見極めることができる。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 現代の課題に対する解決を提案するにあたって、多面的に考えることができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 研究調査した内容を的確な文章で、他者に分かりやすく表現することができる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | ゼミをはじめとした討議の場において、他者の意見を受け入れながら、自分の意見を述べるができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 円滑に研究が進行するよう、ゼミで決めたルールを遵守することができる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 心理学の卒業研究ワークブック発想から論文完成までの10ステージ/小塩真司・宅香奈子(著)/金子書房 その他、適宜、文献を紹介・配布する | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 本科目は、履修済みの全ての科目と関連する。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| 授業では習うことよりも自分の考えを言葉や文章で表現することが必要になります。 インプットとアウトプットを積極的に行いましょう。 | | | | 遅刻は原則として認めません。欠席扱いとします。ただし遅延証明書のある場合は考慮します。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | | |
|-----------------------|--------------|--------------------|-------|------|---|--|--|---|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | | |
| | | | | ② | | | | |
| | | | | ③ | | | | |
| | | | | ④ | | | | |
| | | | | ⑤ | | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | | 0 | ① | | | |
| | | | | | ② | | | |
| | | | | | ③ | | | |
| | | | | | ④ | | | |
| | | | | | ⑤ | | | |
| | | レポート | | 70 | ① | | | 1年間の研究結果として研究目的に沿った内容、結果、考察になっている必要がある。先行研究を丁寧に読み込み、問題、目的、方法、結果、考察の順に論文を作成する。 ・pisa型学力の評価方法について 知識の獲得（心理学的概念の理解・用語の理解）：20% 知識の活用（心理学的概念を用いた事例の活用の試み）：30% 知識の解決（心理学的概念を用いた事例の具体的な提案）：20% |
| | | | | | ② | | | |
| | | | | | ③ | | | |
| | | | | | ④ | | | |
| | | | | | ⑤ | | | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | | 20 | ① | | ゼミでの発表の際に必要な情報や、討議したい内容を明確に示し、他者に分かりやすく伝えられるか、丁寧に資料を準備しているか、他者の意見を聞き入れられるか等を評価する。 | | | |
| | | | ② | | | | | |
| | | | ③ | | | | | |
| | | | ④ | | | | | |
| | | | ⑤ | | | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | | 10 | ① | | 主体性：研究課題と到達目標を設定し、自ら研究に取り組むことができる。 実行力：研究遂行のために、必要な事項の調査や資料収集を行うことができる。 課題発見力：研究を行うにあたり、自身の体験だけでなく、先行研究から重要な課題を見極めることができる。 創造力：現代の課題に対する解決を提案するにあたって、多面的に考えることができる。 発信力：研究調査した内容を的確な文章で、他者に分かりやすく表現することができる。 傾聴力：ゼミをはじめとした討議の場において、他者の意見を受け入れながら、自分の意見を述べるすることができる。 規律性：円滑に研究が進行するよう、ゼミで決めたルールを遵守することができる。 | | |
| | | | | ② | | | | |
| | | | | ③ | | | | |
| | | | | ④ | | | | |
| | | | | ⑤ | | | | |
| 総合評価割合 | | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 論文執筆では、研究課題に沿った目的を明確にした上で、目的に適した方法を選択し、読み手にわかりやすい論文を執筆することができる。 発表では研究内容を聞き手に向かって、わかりやすく伝えることができる。 その他、学会等で発表ができる。 上記全て満たせばS、一部満たせばA | <ul style="list-style-type: none"> 指定された期限までに提出物（テーマ、発表要旨、論文等）を提出することができる。 論文では「目的」を明確にした上で、論文を書きあげることができる。 発表では指定時間内に研究内容を伝えることができる。 上記全て満たせばB、一部満たせばC |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|---|-------------------------------|---|--|-------|---|
| 1-5 | ・オリエンテーション ・研究テーマについて検討する。 | プレゼンテーション ディスカッション 個人指導 | ディスカッションを行い、自らの研究課題を明らかにすることができる。 | 【予習】研究課題を絞り込むために文献の収集を行う。 【復習】授業内でのコメントを整理し、振り返りを行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | ・研究課題(テーマ)の決定と研究計画の設計 ・研究課題を明らかにし研究目的、方法について計画を行う。 | プレゼンテーション ディスカッション 個人指導 | ・ディスカッションを行いながら研究課題を達成するための研究方法を考える。 ・調査計画の作成、準備、実施ができる。 | ・文献の検討を行う。 ・研究目的に適した研究方法で調査を準備する。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-15 | ・研究方法の検討を行う ・調査の準備・実施を行う | プレゼンテーション ディスカッション 個人指導 | ディスカッションを行いながら研究課題を決定し、研究計画を立案することができる。 | 【予習】文献の繋がりを検討する。データ入力・集計・分析を行う。課題解決のための提案を考察・検討を行う。 【復習】授業内でのコメントを整理し、振り返りを行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | ・データ入力・集計・分析 ・課題解決のための提案の考察・検討 | プレゼンテーション ディスカッション 個人指導 | ディスカッションを行いながらデータ分析することができる。 課題解決のための提案を考察・検討することができる。 | 【予習】データ入力・集計・分析を行う。課題解決のための提案を考察・検討を行う。 【復習】授業内でのコメントを整理し、振り返りを行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 21-25 | ・卒業論文の執筆を行う | プレゼンテーション ディスカッション 個人指導 | ディスカッションを行いながら卒業論文を執筆することができる。 | 【予習】調査結果の解釈と図表の作成を行い、卒業論文を執筆する。 【復習】授業内でのコメントを整理し、振り返りを行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 26-30 | ・卒業論文・要旨の執筆を進める ・発表資料の作成を行う ・ピアレビューを行う | プレゼンテーション ディスカッション 個人指導 | ディスカッションを行いながら卒業論文・要旨を執筆し、発表資料を作成することができる。 | 【予習】卒業論文、要旨をまとめる。また、発表のための資料を作成し、準備を行う。 【復習】授業内でのコメントを整理し、振り返りを行う。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-----------------------------------|---|------------------|--|-----|--------|---------|
| 330743148K | 卒業研究(中野真悟) graduation Research | 中野真悟 | | | 4 | 必修 | 4通年 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| 本授業では、社会的に自立し、地域・国際社会に貢献できる社会人を育成するために、これまでに修得してきた建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を活用し(DP①)、独自の着眼点を生かしながら主体的に実践的な研究活動を行うとともに、研究の成果が伝わるように発表する技術を身に付ける(DP③)。その際、現代のこどもの生活問題や教育現場での課題を踏まえ、その解決に資する研究の主題を設定し(DP②)、その実現を目指して研究に取り組む。研究成果をまとめた後には、発表を行う。 | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 課題意識に基づいて、研究するテーマを確定する。 ② 先行研究やテーマに関する資料を調査し、知識を獲得する。 ③ 研究の方法や、論文の構成を考える。 ④ 研究の結果や、それを踏まえた考察をまとめて、論文を作成する。 ⑤ プレゼンテーションを作成し、研究内容を発表する。 | | | | ① 課題意識に基づいて、研究するテーマを確定することができる。 ② 獲得した知識を活用し、先行研究やテーマに関する資料を調査することができる。 ③ 調査結果を活用し、研究の方法や論文の構成を決めることができる。 ④ 調査結果を踏まえて、課題を解決するための考察をまとめ、論文を完成することができる。 ⑤ プレゼンテーションを作成し、研究内容を発表することができる。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 自身の経験や現在の生活と結び付けながら、関心をもって研究に取り組むことができる。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 自身で目標を設定し、その達成に向かって最後まで調査や執筆に取り組むことができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 状況を把握して、研究テーマとなる新たな課題を見出すことができる。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 研究テーマに対して、多様な考え方をもち柔軟に取り組むことができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 調査や考察した内容を、執筆や発表において相手に伝わるように的確に表現することができる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | 他者と自分の意見を比較し取り入れながら考えを深めることができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 情況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | ゼミで定めたルールを守り、円滑に研究を進めることができる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| テキスト：必要に応じて資料を紹介する。 オープンエデュケーション：「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」(文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 本科目は卒業必修科目であり、それまでに学んだ全ての科目をもとにした、大学での学びの集大成となる科目である。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| ・前期はゼミナールを行い、後期は主に個別指導とする。 ・毎回のゼミでは、他者との対話的な議論を通して、研究を深めることを目指す。 | | | | ・無断欠席や遅刻をしない。 ・毎回発表ができるように、各自資料を作成して持参すること。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|-------|------|---------------------------------|---|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | | | ⑤ | | |
| | 小テスト | 0 | ① | | |
| | | | ② | | |
| | | | ③ | | |
| | | | ④ | | |
| | | | ⑤ | | |
| レポート | 0 | ① | | | |
| | | ② | | | |
| | | ③ | | | |
| | | ④ | | | |
| | | ⑤ | | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | <ul style="list-style-type: none"> 論文執筆では、課題意識に基づいたテーマを決め、それに適した先行研究や資料を調査し、読みやすい論文を執筆することができる。 発表では、研究成果が読み取りやすいプレゼンテーションを作成し、分かりやすく発表することができる。 |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| | | | ⑤ | ✓ | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | <ul style="list-style-type: none"> (主体性) 自身の経験や現在の生活と結び付けながら、関心をもって研究に取り組むことができる。 (実行力) 自身で目標を設定し、その達成に向かって最後まで調査や執筆に取り組むことができる。 (課題発見力) 状況を把握して、研究テーマとなる新たな課題を見出すことができる。 (創造力) 研究テーマに対して、多様な考え方をもち柔軟に取り組むことができる。 (発信力) 調査や考察した内容を、執筆や発表において相手に伝わるように的確に表現することができる。 (傾聴力) 他者と自分の意見を比較し取り入れながら考えを深めることができる。 (規律性) ゼミで定めたルールを守り、円滑に研究を進めることができる。 |
| | | | ② | ✓ | |
| | | | ③ | ✓ | |
| | | | ④ | ✓ | |
| | | | ⑤ | ✓ | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 期限までにテーマ、発表要旨、論文等を提出することができる。 論文では、研究の「目的」を明確にしたうえで、それに適した「方法」を選び、調査による「結果」やそれに伴う「考察」をし、「まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができる。 発表では、指定時間内に研究内容を聞き手にわかりやすく発表することができる。 <p>上記3点に到達した学生にはAとする。さらに、下記の1点ができた学生はSとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究内容や表現に独自性をもって論文を書くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 期限までにテーマ、発表要旨、論文等を提出することができる。 論文では、研究の「目的」を明確にしたうえで、それに適した「方法」を選び、読み手にわかりやすく書くことができる。 発表では、指定時間内に研究内容を発表することができる。 <p>上記3点で、成果を出した学生にはB、それよりも低い場合はCとする。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|---|--|---|-------|---|
| 1～5 | <ul style="list-style-type: none"> 図書館やインターネットで文献を調べ、研究テーマを決める。 google classroomによる課題の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ゼミナール ディスカッション グループ討議 発表 課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについてまとめたレジメを作成できる。 | <ul style="list-style-type: none"> (予習) 研究テーマに関するレジメを作成すること。 (復習) ゼミナールを通して学んだことを整理し、次回のレジメを作成すること。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 発信力 規律性 |
| 6～10 | <ul style="list-style-type: none"> 図書館やインターネットで文献を調べ、研究テーマに関する資料を収集し、研究の計画を立てる。 google classroomによる課題の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ゼミナール ディスカッション グループ討議 発表 課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する資料を収集し、研究の計画を立てることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> (予習) 研究テーマに関する先行研究や資料を収集すること。 (復習) 研究の目的に応じた先行研究や資料を精選すること。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 発信力 規律性 |
| 11～15 | <ul style="list-style-type: none"> 研究の方法を検討し、論文の構成を考える。 google classroomによる課題の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ゼミナール ディスカッション グループ討議 発表 課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 研究の方法を理解し、論文の構成をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> (予習) 研究の目的に応じた調査の計画を作ること。 (復習) 論文の構成上で必要な調査を実施する準備をすること。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16～20 | <ul style="list-style-type: none"> 研究方法を用いて得られた結果をまとめ、論文を作成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人指導 課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 研究で得られた結果をまとめ、論文作成を進めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> (予習) 研究の結果をまとめた資料を作ること。 (復習) 研究の結果の分析をすること。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 規律性 |
| 21～25 | <ul style="list-style-type: none"> 結果から考察を行い、それをまとめて論文を作成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人指導 課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 結果から考察を行い、推敲しながら論文作成を進めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> (予習) 研究の結果から考察したことをまとめ、論文で執筆した部分を報告する資料を作ること。 (復習) 他者との話し合いで得られたアドバイスを元に、論文資料の校正をすること。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 26～30 | <ul style="list-style-type: none"> 論文から発表会の資料を作成し、卒業研究発表会で発表する。 オンデマンド配信 | <ul style="list-style-type: none"> 個人指導 課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい発表資料を作成し、時間内に発表する練習ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> (予習) 論文や発表スライドを作成し、発表の練習をすること。 (復習) 他者との話し合いで得られたアドバイスを元に、論文や発表の改善をすること。 | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|------------|----------|------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 330743148L | 卒業研究(永津) | 永津利衣 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |

科目の概要
 建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる人材、現代の子育てや教育における専門的な知識と技能を身に付け、課題解決に向けて、自立した社会人として自らの可能性を高め、社会に貢献できる人材の育成をめざす(DP①②③)。これらのDPを踏まえ、4年間の学びの集大成として、自らの関心から主体的に課題を発見し、研究計画を立て、文献やフィールドから情報を収集し、科学的な視点から分析や考察を行っていく。その成果を論文としてまとめ、わかりやすく発表する。研究テーマは、音楽表現を中心とした子どもの表現、障害のある子ども、インクルーシブ保育・教育に関する分野とする。

| 学修内容 | 到達目標 |
|--|---|
| ① 興味・関心のあるテーマの先行研究を行い、研究目的を明確にする。 ② 研究方法を検討し、研究計画を立てる。 ③ 研究計画に基づいて調査やフィールド実践などでデータを収集する。 ④ 収集したデータを分析し、考察を行う。 ⑤ 論文やスライド資料を作成し発表する。 | ① 興味・関心のあるテーマの中で、解決すべき課題を明らかにし、研究目的を設定することができる。 ② 研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 ③ 研究計画に基づいて調査やフィールド実践などでデータを収集することができる。 ④ 収集したデータを分析し、考察することができる。 ⑤ 論文やスライド資料を作成し発表することができる。 |

| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | |
|---------------------|---------------------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 到達目標に向けて、自ら研究に取り組むことができる。 |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 研究遂行のために、粘り強く資料収集や調査を行い、推考し、執筆に取りかかることができる。 |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 |
| | 計画力 | |
| | 創造力 | 物事を多面的な視点からとらえて比較や統合し、新たな考えを生み出すことができる。 |
| チームで働く力 | 発信力 | 内容を整理して的確な文章で表現し、わかりやすく発表することができる。 |
| | 傾聴力 | 他の人の意見を聞き取り、的確に理解することができる。 |
| | 柔軟性 | |
| | 状況把握力 | |
| | 規律性 | 計画に基づき、期限やルールを守って目標達成に向けて行動することができる。 |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献

研究テーマに応じて参考文献を適宜紹介し、資料を配布する。

他科目との関連、資格との関連

本科目は卒業必修であり、これまで学んできた全科目の集大成となる位置づけである。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の興味・関心から熱意をもって取り組むことのできるテーマを選ぶ。 計画に沿ってコツコツと取り組むとともに、常にアンテナを張って情報収集を行い、探求心を養う。 他者と議論を交わす中で視野を広げ、研究を深めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 無断欠席をしない。 資料を作成して進捗報告を行う。 社会人としての礼儀やマナーを意識して、他者と接すること。 |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | | |
|-----------------------|--------------|-------|------|---|--|---|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | | | |
| | | | ② | | | | |
| | | | ③ | | | | |
| | | | ④ | | | | |
| | | | ⑤ | | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | 0 | ① | | | |
| | | | | ② | | | |
| | | | | ③ | | | |
| | | | | ④ | | | |
| | | | | ⑤ | | | |
| | | レポート | 80 | ① | | ✓ | ゼミ内報告 ・各テーマごと（研究テーマ、先行研究のまとめ、研究目的の設定、データ収集の方法、分析の方法、研究計画の立案、データ収集の準備、データ収集の進捗、分析結果、考察）ごとにまとめて報告し、フィードバックを修正できる。 |
| | | | | ② | | ✓ | 論文 ・目的、方法、結果、考察と今後の課題の体裁が整えられている。 |
| | | | | ③ | | ✓ | |
| | | | | ④ | | ✓ | |
| | | | | ⑤ | | ✓ | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 10 | ① | | 研究発表 ・研究内容を体裁を整えて、わかりやすく伝えることができる。 ・質問に対して的確に答えることができる。 | | | |
| | | ② | | | | | |
| | | ③ | | | | | |
| | | ④ | | | | | |
| | | ⑤ | ✓ | | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | （主体性）到達目標に向けて、自ら研究に取り組むことができる。 （実行力）研究遂行のために、粘り強く資料収集や調査を行い、推考し、執筆に取りかか ることができる。 （課題発見力）事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 （創造力）物事を多面的な視点からとらえて比較や統合し、新たな考えを生み出すこと ができる。 （発信力）内容を整理して的確な文章で表現し、わかりやすく発表することができる。 （傾聴力）他の人の意見を聞き取り、的確に理解することができる。 （規律性）計画に基づき、期限やルールを守って目標達成に向けて行動することができる。 | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| S(秀)：研究成果として、これまでになかった新しい知見を示すことができること。 A(優)：論旨の展開の仕方が明瞭であり、かつ論考を基に整合性のある結果や考察を導き出している。 | B(良)：研究目的に沿った論旨の展開、結果、考察になっていること。 C(可)：論文の体裁が整えられて書かれている。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|---------------------------------|---|--|-------|---|
| 1-5 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・論文の書き方について学ぶ。 ・文献検索方法について学び、関連文献を収集する。 ・関連文献を読み合わせ、研究課題を絞り込む。 | グループワーク、ディスカッション ICT | 研究課題を仮決定することができる。 | <p>予習 興味のあるテーマに関連する文献を収集して読む。</p> <p>復習 そのテーマに内在された課題を洗い出し、研究課題をまとめる。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-10 | <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の収集と通読。 ・研究目的を決定する。 ・研究方法を検討する。 ・研究計画を立案する。 | グループワーク、ディスカッション 個人指導 ICT | 研究目的にそって、研究計画を立てることができる。 | <p>予習 先行研究から見出した課題を基に、研究目的を考える。</p> <p>妥当性・信頼性のある研究方法を検討する。</p> <p>復習 研究計画を立案する。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-14 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に基づいて、調査やフィールド実践などでデータを収集する。 | 個人指導 グループワーク、ディスカッション ICT | データ収集を行い、進捗状況を報告することができる。 | <p>予習：データ収集のための準備を行う。</p> <p>復習：収集したデータを記録し、整理して報告できるようにする。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の要約と整理 | オンデマンド | 文献を要約し、進捗状況を報告することができる。 | <p>予習：先行研究を要約する。</p> <p>復習：指摘箇所の推敲と、先行研究の流れを整理する。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | <ul style="list-style-type: none"> ・収集したデータの分析と考察 | 個人指導 ディスカッション ICT | 分析したこと、考察したことを発表することができる。 | <p>予習：自分の考えを根拠づけながらまとめる。</p> <p>復習：ディスカッションで得た課題についてまとめる。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 20-29 | <ul style="list-style-type: none"> ・論文執筆 ・要旨、スライド資料の作成 | 個人指導 ICT | 研究した内容について論文やパワーポイントにまとめ、進捗状況を報告することができる。 | <p>予習：手順に従って計画的に執筆する。</p> <p>復習：指摘された箇所を推敲しながらまとめる。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 30 | スライド資料を用いた発表練習 | オンデマンド | 模擬発表ができる。 | <p>予習：発表の準備や練習をする。</p> <p>復習：模擬発表を行う中で発見された課題を解決する。</p> | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-------------|---|------------------|--|-----|--------|---------|
| 330743148M | 卒業研究(宮武里衣) | 宮武里衣 | | | 4 | 必修 | 4前期・後期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| 4年間での学びの集大成として、DP1. 2. 3すべてに関連する科目である。主体的に研究テーマを選択し、的確な研究方法で研究し、論文として完成させる。国語教育を中心に、言葉に関すること、文学に関することを切り口としながらも、人と関わるときの新たな発見ができるよう研究活動をする。 | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 研究テーマを選定し、目的を設定する。 ② 研究課題から研究目的を明確にする。 ③ 研究方法を検討し、調査及びデータ分析・取材を行う。 ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成する。 ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表する。 | | | | ① 研究テーマを選定し、目的を設定できる。 ② 研究課題から研究目的を明確にすることができる。 ③ 研究方法を検討し、調査及びデータ分析または取材方法を獲得することができる。 ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成することができる。 ⑤ 研究内容を社会で活用できる。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 研究目標に向かって、課題を自ら見つけて取り組むことができる。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | | |
| | 実行力 | 課題を仕上げるための手順や方法を考えることができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事実に基づいて、情報を客観的に整理し課題を見極めることができる。 | | | | | |
| | 計画力 | | | | | | |
| | 創造力 | 研究結果を多面的・多角的にとらえ、自分の視点から分析し、文章にまとめることができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 整理した内容を的確な文章で表現でき、聴き手に分かりやすく発表することができる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | 教員や他のゼミ生の意見を尊重しながら、自分の意見を的確に述べるすることができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | | | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | | |
| | 規律性 | 計画的に進行し、期限を守るよう努力することができる。必要な時には教員や他のゼミ生との連携を上手にすることができる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 『大学生のための本日本語リテラシーとレポートライティング』宮武里衣（ナカニシヤ出版社） 参考資料・文献は適宜紹介する。 | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 「卒業研究」は全ての科目で学んだ知識・技能を活用して臨み、技能・思考力・判断力・表現力を発揮する科目である。 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| 4年間の学修の集大成として研究論文を作成するために他の授業、就職活動と並行して努力すること。 | | | | スケジュール管理をしっかりと、見通しをもって臨むこと。 | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | |
|-----------------------|--------------|--------------------|-------|------|---|---|---|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | |
| | | | | ② | | | |
| | | | | ③ | | | |
| | | | | ④ | | | |
| | | | | ⑤ | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | | 0 | ① | | |
| | | | | | ② | | |
| | | | | | ③ | | |
| | | | | | ④ | | |
| | | | | | ⑤ | | |
| | | レポート | | 80 | ① | ✓ | <ul style="list-style-type: none"> ・期限までに提出物を提出することができる。 ・「目的」を明確にした上で、目的に適した「方法」を選択し、根拠を明らかにして論文を書くことができる。 ・知識の獲得40%（論文の構成） ・知識の活用40%（論文の内容） |
| | | | | | ② | ✓ | |
| | | | | | ③ | ✓ | |
| | | | | | ④ | ✓ | |
| | | | | | ⑤ | | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | | 10 | ① | ✓ | <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識したプレゼンテーションを作成し、指定時間内に研究内容をわかりやすく伝えることができる。 ・知識の解決10%（発表の内容） | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | <ul style="list-style-type: none"> （主体性）目標に向かって、指示を待たずに課題を見つけて取り組むことができる。 （実行力）手順や方法を模索して計画的に研究を進め、必要に応じて行動することができる。 （課題発見力）事実に基づいた情報を客観的に整理し、課題の本質を見極めることができる。 （創造力）研究結果を多面的・多角的にとらえ、自分の考えで分析し、文章にまとめることができる。 （発信力）研究内容を整理して、聞き手を意識した発表することができる。 （傾聴力）教員や他のゼミ生の意見をよく聞き、それを把握した上で、自分の意見を述べるることができる。 （規律性）計画性をもって進行し、期限を守るよう努力することができる。 | | |
| | | | ② | ✓ | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| <p>A(優)・指定された期限までに提出物を提出することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文では「目的」を明確にしたうえで、目的に適した「方法」を選択し、「結果、考察、まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができた。 ・発表では指定時間内に聞き手にわかりやすく伝えることができた。 <p>S(秀)・上記3点に加え、研究内容に独自性があり、学生の前で工夫しながら発表できた場合。</p> | <p>B(良)・指定された期限までに提出物を提出することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文では「目的」を明確にした上で、「方法、結果、考察、まとめ」を書くことができた。 ・発表では相手意識をもって研究内容を伝えることができた。 <p>C(可)・Bの項目のうち、一つでも認められない場合。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|---|------------------|--------------------------------------|--|-------|---|
| 1-2 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文についての年間計画を立てる 文献検索方法に関して図書館の利用方法を学ぶ 過去の研究テーマを知る 設定した課題の文献を情報読みする | 討議 調査 | 研究課題を明確にすることができる | (予習) 研究テーマを検討する (復習) 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、情報読みする | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 3-5 | <ul style="list-style-type: none"> 図書館において、文献検索方法について学ぶ 過去のテーマを検索する 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、情報読みする | 討議 個別指導 調査 | 先行研究を読み込み、研究課題の方向性を確定できる。 | (予習) 先行研究を読む (復習) 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、情報読みする | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6-8 | <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの決定と研究計画書の作成をする 研究課題を明確にし、研究目的、方法を考える | 討議 個別指導 | 研究課題を決定し、研究計画書を作成することができる | (予習) 研究計画を立てる (復習) 研究課題を明確にし、計画の実行性を考える | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 9-10 | <ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいて、研究をすすめる 研究のための文献の収集、フィールド調整をする 予備調査、研究に基づいて、仮説を立てる | 個別指導 フィールド調査 | 調査研究を行うフィールドを調整することができる | (予習) 文献読了をすすめる (復習) 研究課題を明確にし研究目的、方法、内容について計画を行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 11-13 | <ul style="list-style-type: none"> 研究方法を検討する アンケートやインタビュー調査の場合は、項目の検討と日時の折衝をする。 予備調査、研究に基づいて、仮説を立てる。 | 討議 個別指導 | ゼミ内討議に積極的に参加して、研究方法をよりよいものにすることができる。 | (予習) 調査の準備をする (復習) 研究方法を検討し、調査を行う | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 14-15 | <ul style="list-style-type: none"> 研究方針に基づいてフィールド調査を行う 記録の分析方法を知る | 個別指導 | フィールド調査の分析方法が理解できる | (予習) 調査の準備をする (復習) 記録の分析を進める | | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 16-20 | <ul style="list-style-type: none"> アンケートの集計及び、取材のまとめをする 文献の分析をする 論文執筆要領を理解する 論文執筆を進める | 個別指導 | 章の内容を考えたとうえで、目次を立てられる | (予習) 調査結果を表やグラフにし、考察を進める。 (復習) 表やグラフを考察して、論文執筆要綱に則り、論文を作成する | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 21-25 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の作成、抄録の作成 文章の推敲 | 個別指導 | 文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができる | (予習) 論文執筆する (復習) 論文執筆要綱に則り、論文を作成する | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|--|------------|--|--|-------|---|
| 26-29 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の仕上げ、抄録の作成 発表のためのパワーポイント作成 発表原稿の作成 | 個別指導 | 文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができ、発表のための論文要旨がまとめられる論文の内容を発表時間に合わせて話すための筋書きができる | (予習) 論文執筆し、発表のためのパワーポイントを作成する (復習) 論文執筆要綱に則り、論文を作成し、時間内に発表する練習をする | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 30 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究提出の準備をし、研究発表の練習をする | 討議 個別指導 | わかりやすいパワーポイントができ、所定の時間内に発表ができるよう練習することができる | (予習) 時間内に発表する練習をする (復習) 論文を推敲し提出する | 180 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力